

生分解性マルチ(コーンマルチII)の効果確認試験

JA十勝池田町

陶久 保政



①6.2 慣行区



②6.2 試験区



③6.28 慣行区



④6.28 試験区



⑤9.29 慣行区



⑥9.29 試験区

試験目的	生分解性マルチの実用性確認試験					
試験作物及び品種	南瓜(九重栗イレブン)					
試験資材及び数量(規格)	コーンマルチII(0.015mm×135cm×400m) 透明 無孔 1本					
慣行資材	キ工丸 透明					
栽培方法	<table border="1"> <tr> <th>定植日</th> <th>収穫日</th> </tr> <tr> <td>慣行区:6月5日 試験区:6月5日</td> <td>慣行区:9月4日 試験区:9月4日</td> </tr> </table>	定植日	収穫日	慣行区:6月5日 試験区:6月5日	慣行区:9月4日 試験区:9月4日	【栽植密度】 畝幅:66cm 株間:80cm
定植日	収穫日					
慣行区:6月5日 試験区:6月5日	慣行区:9月4日 試験区:9月4日					
資材使用期間	5月29日~9月20日					

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張作業については、慣行品と変わらず問題なく行うことができました。

試験品の方が薄肉であるため、重量が軽い分、機械へのセットは楽であった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

試験品は薄肉である分、保温性が低下する可能性があったが、生育差は見られなかったため、保温性も問題ないと考えられる。

また、収量についても慣行区と試験区で差はなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

過去に試験を行ったマルチは、展張時に裂けたことがあったが、今回の試験品は問題なかった。

モニター感想

過去に他メーカーで試験を行った際には、展張時に裂けたことがあったが、今回の試験品については、問題なく作業することができた。色が透明であるため雑草は生えてきたが、どちらも差はなかった。

展張作業から、生育、収穫に至るまで、試験品と慣行品のマルチで、性能に大きな差は見られなかった。

また、生分解性マルチ全般に関してではあるが、土を被せている部分の分解速度が物足りないため、改善されると良い。

JA担当者の感想(生産資材課 桜井氏)

慣行品よりも薄いので、作業性や生育状況に差が出るのが懸念されたが、全体を通して遜色ない結果だったと思う。ただし、今回は試験品であったので問題視していないが、製品化されたときのピッチマークは株間80cmが分かるような仕様にしてほしい。

生分解性マルチは、通常のポリマルチに比べて高価であるため、今回のようなコスト低減に向けた試験は効果的であると感じた。薄肉であることから、作業性の向上と価格メリットに期待したい。

今後の使用について

継続して使用したい。

問題なかったため、価格次第では使用しても良い。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリンテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他